

# 「地元で貢献できる農業経営を目指して」

福田 尚史 (48歳) 新規参入  
(松野町)



## 1 就農の動機・理由

農業には元々興味があり、20代の頃から趣味で野菜を栽培したり、松野町のアグリレスキュー講座を受講したりしていた。40歳を超え、改めて今後の人生を考えた時に、興味のある農業に本気で取り組みたいと思うようになり、就農を決意した。

また、農業次世代人材投資事業等の経営支援制度が整っていたことも、就農を決めたきっかけの一つとなっている。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成27年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和6年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	畑 8a 樹園地 35a	畑 18a 樹園地 84a	畑 40a 樹園地 100a
経営内容	ユズ 35a アスパラガス 3a その他野菜 5a ※親の農業経営を一部継承	ユズ 84a ブロッコリー18a	ユズ 100a ブロッコリー20a ホワイトコーン 20a

### ○農業用施設

倉庫 17.5㎡

### ○主要農業機械

トラクター 1台  
草刈機 1台  
動力噴霧器 1台  
エンジンポンプ 1台  
溝上げ耕運機 1台  
畝立てマルチ機 1台  
ハンマーナイフモア 1台

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県松野町

職歴 農機具会社等

就農研修歴

毛利園芸 (松野町豊岡)

(H26.10.6~H27.10.5)

就農年月 平成27年10月

### (2) 就農時の思い

親は水稻をメインに栽培していたが、土地の条件や面積、機械代等を考えると水稻では採算が取れないと感じた。

そこで、鬼北地区で推奨されている品目で、初期投資等もかからないゆずを経営の柱に、農業をしようと思った。

研修制度や経営支援制度が充実していたことから、就農に対する不安はほとんどなかった。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

農業次世代人材投資事業 (準備型)

の研修制度を活用して、地元の農業指導士の指導のもと、ゆずの基本栽培技術の習得に努めた。

また、ネット等からの情報収集も欠かさず行い、絶えず最新の情報に目を向けるようにしている。

## (2) 資金の準備

就農前の研修時に農業次世代人材投資事業（準備型）を1年間、就農後は農業次世代人材投資事業（経営開始型）を受給している。果樹経営支援対策事業や経営継続補助金等も活用している。

## (3) 農地・住宅の確保

農地は親の農地を一部継承した。住宅も実家に住んでいるため、確保には困らなかった。

## (4) その他苦労したこと

水田から転換したほ場で栽培していることから、ほ場の排水対策には苦労した。ユンボや手作業で明渠、暗渠を掘る作業は大変だった。

また、一人で作業を行っており、体調を崩してしまうと経営が成り立たなくなってしまうので、病気やケガ等の体調管理には常に気を使っている。

## 5 農業経営の特徴

ゆず中心の栽培に取り組んでいる。

果樹栽培では収穫作業に一番労力を必要とする。現在は若木であり、収量も少なく一人で回せているが、樹が大きくなるにつれ収穫が間に合わなくなると思う。そこで、夏場の青ゆず出荷等を行い、労力分散できるような工夫を考えている。

## 6 これからの夢

近年問題になっている高齢化や人口減少等の問題は松野町でも顕著であり、耕

作放棄地等の問題がある。地元の土地が荒れていくのを見るのは寂しい。自分一人ではどうにかできる問題ではないが、少しでも地元の農地の維持に貢献していきたい。

## 7 成功したキーポイント

果樹の未収益期間を事業の給付金等でカバーすることができたのは大きなポイントだと思う。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は作業的にしんどいこともありますが、作物の成長は素直に喜べますし、楽しいと感じる瞬間が多い職業だと思います。家族や関係機関等、周囲との相談が農業では大切だと思います。

### ○ 指導機関からのひとこと

福田さんは栽培技術向上の意識も高く、日々努力されております。

将来は地域の活性化に貢献する地域のリーダーとして活躍することを期待しています。

### 執筆機関

南予地方局産業振興課地域農業育成室  
鬼北農業指導班

電話番号 0895-45-0037



ゆずの誘引作業